

## 理学部 四條孝太郎

私は城西大学水田三喜男記念奨学生としてハンガリー・ブダペスト商科大学(BBS)国際経営学部の学生と「持続可能な経済発展」をテーマとした国際グローバル研修に参加した。このプログラムでは、まず日本人学生とハンガリー学生が2つのグループに分かれ、事前に各グループのテーマに基づくPPTの作成をし、その後で日本とハンガリーの互いの国の現状や行われている取り組みなどを意見交流しながらワークショップでの発表の準備を行い、最後にその成果を日本人学生は英語で、ハンガリー人学生は日本語で発表した。またハンガリーの歴史や日本語の授業など様々な講義参加に加え、音楽ハウスや美術館見学、市内観光にも行き、たくさんの新しい発見や学びを得るとも良い機会であった。この素晴らしいハンガリー短期研修プログラムを通じて学んだことは大きく分けて3つある。

1つ目は、日本との「違い」についてだ。実際にハンガリーで生活をして、食文化や生活習慣の違いはもちろんのこと、国の歴史や芸術、街並みなど異文化に触れたことで日本との違いに毎日が驚きの連続だった。ハンガリーでは主にパンやスープが食べられており、中でも代表的なハンガリー料理であるグヤーシュという牛肉、タマネギ、パプリカなどの香辛料からつくられるスープはコクが深くとても印象的であった。また街並みに関しても伝統的な建築物が多く、飾りが豊富で空間を強調するバロック様式や建物の高さを意識することで神様との結びつきを意味するゴシック様式などさまざまな建築様式が至る所に施されており、日本の建物との違いを現地で体感できたことはとても興味深いものだった。街の中では様々なマークや標識が目に入ってきた。ハンガリーでは日本の標識よりも細かく様々なものがあり、これはハンガリーがヨーロッパという地域に属していることが関係していると考えられる。しかし、様々な国の人々が容易に入国できるという環境下でハンガリーの常識が他国の人にも通じるとは限らないことから、標識を細かくわかりやすいものにするなどでどんな人が見ても同じ意味で受け取って貰えるように作られているのだと思った。このような、日本とは異なるヨーロッパならではの文化の違いや仕組みを直に感じる事ができた。

2つ目は今回のプログラムのテーマに沿う持続可能な社会への見解を深める事ができたことだ。私たちのグループでは「人と川との関わり方の変遷について」をテーマに河川の長さや生息生物、水の硬度など互いの国の河川の特徴や人々と川の付き合い方の変化、ゴミ問題がもたらす国への影響などをまとめた。ハンガリーでは汚染物質による河川が原因で危険にさらされている地域はあるが、政府の呼びかけによるダム建設や工場の流す薬品の制限により河川のゴミ問題は改善されている傾向にあった。BBS教授のMs.Hidasiの講義でも先ほど述べたようにサステイナブルなサインを長い文章をあえて使わず、皆がわかりやすいスクリプト記号や口頭説明にする工夫があることなどを教わり、それもハンガリーの環境問題に対する意識の高さにつながっていると思った。また、私はハンガリーの教育の質の高さにも驚

かされた。アラニ・ヤーノシュ小学校・初等芸術学校を訪問した際には、SDGsに目を向けた教育が行われており、理科の授業ではクラス全員の生徒が間違いを恐れることなく、間違いに気づかせて学ぶ授業を行っていた。生徒たちが積極的に手を上げて授業に参加し、自分たちでゴミの種類と分別方法を考えてグループワークを行っていたことからハンガリーの環境問題に対する意識と教育の質の高さを実感した。私の将来の夢である教員に必要な素養を見つけるとても貴重な機会になった。

3つ目は、コミュニケーションと異文化交流の大切さだ。実際に体験して1番印象に残っているのはコミュニケーションだ。私たちは日々外国の方とコミュニケーションを取るために世界共通の言語である英語を学んでいるが、それだけでは文化の異なる人達とのコミュニケーションはあまり上手くいかなかった。その理由として、日本とハンガリーの非言語コミュニケーションの違いが目立った。非言語コミュニケーションはコミュニケーションの中で65%~75%を占めている。だから、英語が上手な人でも異文化間コミュニケーションをとる時に苦戦してしまうことがある。英語があまり得意ではない私でもアニメという共通の話題を使ってそのアニメの主人公の台詞やまねをすることで会話を成立させていたことがこの根拠である。それぞれのコミュニケーションを考えてみると、日本の非言語コミュニケーションは穏やかなコミュニケーションをしていて日本特有の「察する」という特徴が全体的に感じられる。しかし、ハンガリーの非言語コミュニケーションは活発なコミュニケーションをしていた。ハンガリーの学生は自分の意見や感情を素直に出していて、行動や表情の一つ一つが全て自分の意見に直接結びついている。例えば、日本では考えている時に目をつぶることがあるだろう。しかし、ハンガリーでは無関心と受け取られてしまう。このように、日本では自分の意見とは関係ない行動でもハンガリーではその人の意見として捉えられてしまう。これが異文化交流の難しさであり、面白さであるとも思える。BBSの学生と仲良くなることができたおかげで異文化交流の大切さを肌で実感し、改めて日本という自国の文化の素晴らしさに気付くことができた。

今回の国際グローバル研修では、自分の狭い価値観や考え方を脱却して、自らが積極的に新しいことに挑戦し、どんなことにも好奇心を持って行動したことでたくさんの学びや貴重な体験を得られ、広い視野で物事を捉えることができた。この経験を糧に将来の夢である生徒によりたくさんの選択肢と可能性を与えられるような理想の教員になるために活かしていく。私が一歩行動を起こしてチャンスをつかんだように、この成果報告書を読んだ本学の学生のみなさんも是非行動を起こしてほしいと考える。

最後に今回の国際グローバル研修をご支援頂きましたすべての関係者の皆様にご心より感謝申し上げます。

